2019年11月16日

生駒山9連勝

紙相撲新聞
第150回本場所
八～九日目号
編集・発行
日本紙相撲協会

勢いに乗る生駒、春ノ翔をも撃破
美空若嶋ら、2差からの逆転あるか

【第百五十回本場所八日～九日目】

紙相撲本場所は前開催日より3週間が過ぎた11月16日、すっきりと晴れ渡るも肌寒さを感じる秋空のもと、館内は外気の肌寒さを全く感じさせないほどの熱気で沸き返るなか、幕内と十両の八日目と九日目に幕下、育成会の四日目の取り組みが、都内の練馬国技館にて賑々しく取り行われた。

九日目、満を持しての止め役として立ちはだかった2敗の大関春ノ翔をも右攻めからの力強い押し倒しで下し、一人全勝を守り、後続と2差とした。

中盤戦の七日目までを取り終え依然全勝を守る生駒山。八日目に協会から送られた刺客はなぜか角武蔵。しかしこの取組には「なぜ角武蔵なのか？」「角武蔵では荷が重いよ」「他に適任がいるのでは？」と参加の親方から理事長に非難の嵐が飛んだ。

そんな声も手伝ってか両者が土俵に上がると角武蔵に期待する声援のなか立ち上がった両者。立ち合いこそ互角だったが、じりじり前に出た生駒山が右を押っつけ角武蔵の体を起こすと今場所初めて見せる左差しを決め正面土俵に寄り切って8連勝。

生駒の八日目の相手は角武蔵。まさかの緩い割組みに理事長への苦情が殺到したらしい。

翌九日目は2敗で後を追う大関春ノ翔に挑戦。立会いで厳しい当たりを見せたのは春ノ翔、その当たりを受けそれ以上に力強く胸を合わせに出た生駒山。春ノ翔が左を差しに出たところにのど輪を差し攻め込む生駒山、そののど輪を外しかけられると更に深く差し込んで粘る春ノ翔を土俵中央から押し倒してただ一人堂々の9連勝を決めた。

これで星の差ふたつのまま残り二番となり、最悪でも決定戦にもつれ込む優位は変わらない。大関でもこの勢いは止められず、十日目はいよいよ横綱美空富士との対戦が組まれる事になると予想される。果たしてこの勢いで横綱をも倒してしまうのか？その注目の土俵から目が離せない。

全勝　生駒山
二敗　美空富士　若ノ嶋　佐賀海
出羽翼　若剣　朱雀湖

久しぶりに終盤まで優勝戦線に絡む活躍を見せる若乃嶋、1敗を守って逆転のチャンスを伺い迎えた八日目は関脇支那虎との一番。立会いで出足を受けると胸を合わせて右を押っつけ左を封じて支那虎には回り込ませず、押し出しに降し1敗を守った。

若乃嶋〇（寄り切り）●支那虎

このまま1敗を守って千秋楽を迎えて欲しいと願う、紙相撲ファンに錦風親方と協会陣の期待を背に九日目は大関魁電と対戦。

立会いで踏み込み勝るも腰の低い魁電の押しに後退し、一瞬抵抗は見せたがそのまま呆気なく寄り切られ2敗目を喫した。土俵を割った瞬間に客席からの感嘆の声が館内に響いた。ここに来てまたしてもチャンスを逃してしまうのか、逆転優勝を狙いに決定戦に持ち込むにはもう負けられない。

魁　電〇（寄り切り）●若乃嶋

第150回本場所星取表

美空富士	横綱	若乃嶋			
春ノ翔	大関	魁電			
佐賀ノ海	関脇	支那虎			
黄薇	小結	源氏丸			
月山	前1	大神楽			
磯昇	前2	白閃光			
超刃	前3	剛勇山			
剣竜	前4	虎剛力			
虎風	前5	出羽翼			
若剣	前6	玄武岩			
夢力	前7	烏帽子岳			
朱雀湖	前8	富士ノ花			
水晶嶽	前9	若巨			
寶蔵	前10	鳥海浪			
四季嶋	前11	角武蔵			
磯光	前12	大江錦			
生駒山	前13	阿吉耶川			
初戸	前14	綱嵐			
日向藤	前15	伊達富士			

照の王	十1	鬼ヶ嶽			
鹿富士	十2	虎ノ國			
千代鈴	十3	雷幕			
龍千動	十4	大種			
太刀鳳	十5	天我			
葵盛	十6	若佑			
若柱	十7	櫻吹雪			
黒雲海	十8	三鷹			
琴乃王	十9	麒麟王			
桃乃洲	十10	紅葉盛			
冬牡丹	十11	剣瀬			
喜乃郷	十12	西勢ノ里			
山辺	十13	吉備ノ里			
春雷	十14	桑ノ城			